

AJ

AQUA JOURNAL
Nature Aquarium
information magazine
Sep. 2022 100YEN

vol.
323

[特集]

NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2022 OSAKA





【エキゾチカ】

熱帯に広がる楽園のように、空想の中の異国のイメージは一言で言うとカラフル。姿や形、大きさもさまざまな生きものたちそれぞれが、存在感を放ちながらも共生している世界。ここではカラフルさを意識して特徴的な色や形を持った水草や熱帯魚で構成し、全体としてエキゾチックな雰囲気を表現した。また、水面より上の流木の突出部にはネオレゲリアなどの熱帯植物も配し、独特なカラフルさも加わり楽園のような空想世界ができあがった。

DATA

撮影日 2022年6月29日 (ADA)
 制作 井上 大輔 (レイアウト制作・文)
 水槽 キューブガーデン W180×D60×H60 (cm)
 照明 ソーラーRGB ×3 (1日8時間30分点灯)
 濾過 スーパージェットフィルター ES-2400 (バイオリオG)
 素材 ホーンウッド
 底床 アクアソイル-アマゾン Ver.2、
 パワーサンド・アドバンスL、バクター100、クリアスパー、トルマリンBC
 CO₂ バレングラス・ビートル500、CO₂ビートルカウンターで1秒に6滴 (タワー使用)
 AIR リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
 添加剤 ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、グリーンブライティ・アイアン
 換水 1週間に1度 1/2
 水質 水温25℃ pH:6.4 TH:50mg/L

植物 BIO ウォーターローン
 BIO グロックススティグマ
 BIO ヒドロコティレ・ミニ
 BIO ポゴステモン・ダッセン
 BIO グリーンロターラ
 ルドウィジア・スファエロカルパ
 ラージリーフハイグロ
 ハイグロフィラ・タイランド
 ハイグロフィラ・ポリスベルマ
 ポゴステモン・エレクタス
 ルドウィジア・グランテュローサ
 ポリゴナム sp. 'ピンク'
 ロターラ sp. ワヤナード

Utricularia graminifolia
Glossostigma elatinoide
Hydrocotyle tripartita 'Mini'
Pogostemon stellatus 'Dassen'
Rotala rotundifolia 'Green'
Ludwigia sphaerocarpa
Hygrophila stricta
Hygrophila stricta Thailand
Hygrophila polysperma
Pogostemon erectus
Ludwigia glandulosa
Polygonum sp. 'Pink'
Rotala sp. 'Wayanad'

アラグアイアレッドロターラ
 クリプトコリネ・スピラリス
 アポノゲトン・クリスプスレッド
 パリスネリア・スピラリス
 タイガーパリスネリア
 ウォーターフェザー
 ミクロソラム・ウエンティロフ
 シノゴケ
 ネフロレピス
 タマシダ
 フィカス・プミラ
 ネオレゲリア 'アマゾン'

Cuphea anagalloidea
Cryptocoryne spiralis
Aponogeton crispus
Vallisneria spiralis
Vallisneria neotropicalis
Fissidens fontanus
Microsorium pteropus 'Windelov'
Thuidium recognitum
Nephrolepis
Nephrolepis cordifolia
Ficus pumila
Neoregelia 'Amazon' ('Lamberts Pride' x 'Gespacho')

魚種 テュメリリエンゼル
 ブラックファントムテトラ
 ネオンテトラ
 スーパーレモンテトラ
 ソードテール
 パールグラミー
 ヤマトヌマエビ
 サイヤミーズフライングフォックス
 オトシンクルス

Pterophyllum leopoldi
Megalampodus megalopterus
Paracheirodon innesi
Hyphessobrycon sp.
Xiphophorus hellerii
Trichogaster leeri
Caridina multidentata
Crossocheilus oblongus
Otocinclus sp.



水草や魚の色味、形の多様さでエキゾチックを表現

アボノゲトン・クリスプスレッドやルドウィジア・グランデュローサといった1株の中で色味にグラデーションがかかるような水草によりエキゾチックな横相をイメージしている。またユニークな形態のデュメリリイエンゼルとソードテールなどが遊泳することでさらに多彩な要素を持つ水景表現を狙っている。



アボノゲトン・クリスプスレッド



ルドウィジア・スファエロカルバ

緑から赤への階調を美しくみせる

グラデーションのかかったカラフルな色合いを維持することで、主題であるエキゾチックな雰囲気表現している。中景のポイントとして植栽しているルドウィジア・スファエロカルバは差し戻しによる管理が基本となり、差し戻し後に葉色が薄くなりやすい。そのため水草をより印象的にみせるために継続的なECA・プラスの添加を行い葉色の向上を図った。

寝かせた流木と摘み取りによる管理で前景に群落を形づくる

構図
骨格



構図段階で流木による土留めを行い、さらに曲線的に底床をならすことよってヒドロコチレ・ミニを植栽するエリアに工夫を施した。群落を丸みの帯びた雲のような形にするため、高い頻度で摘み取り管理を実施。縦伸びするのを抑制することで新芽が重なりながら横に広がり、密度の高い群落に仕上がった。

完成



水草の配植と管理で背景を演出する

同じハイグロフィラの仲間でも葉が大型のラーズリーフハイグロ、ハイグロフィラ・タイランドを手前から中景にかけて、ハイグロフィラ・ポリスペルマを背面側に配植した。複数のテープ系水草を背景に混栽することで、色と形の混ざりあった茂みの構成となっている。またオーバーハンクするように管理して水景全体に陰影をつけ、フラットな構図でありながら単調にならない工夫がなされている。



世界最大のネイチャーアクアリウム
10分後に上映

SPECIAL FEATURE

NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2022

OSAKA ネイチャーアクアリウム展 2022 大阪

7.23^{SAT} - 9.25^{SUN}

なんばスカイオ 7Fコンベンションホール (南海なんば駅直結)

開館時間 | 11:00~18:00

※社会状況によりイベント内容に変更場合があります。

特設サイトはこちら
https://www.tv-osaka.co.jp/event/nature_aquarium/



7月23日、大阪市の南海難波駅直結の都市型複合施設である「なんばスカイオ」にて関西圏では初となるネイチャーアクアリウム展「NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2022 OSAKA」がスタートしました。今回のキーポイントは天野 尚の意志を受け継ぎ、自然の創造に挑戦する5人の水景クリエイター。昨年、東京で開催されたNAE2021を皮切りにさらなる水景表現の追求に情熱を注ぎ、一方で幅広い植物ジャンルを取り入れた新しいレイアウトスタイルを模索しています。本展は、その創作活動の一端となるネイチャーアクアリウムをはじめとした作品の数々が展示されています。また、会場のメインエリアでは180cm規格水槽が9本立ち並び、水景展示イベントとしては過去最大の規模となっています。ここでは、水景クリエイターと制作に携わったスタッフが語る、本展の魅力と制作の裏側をご紹介します。

01

NATURE AQUARIUM
EXHIBITION 2022
OSAKA

鮮やかな 水草たちが彩る 水中景観



水景クリエイター
本間 裕介



NAC(ネイチャーアクアリウム) 創設者
沓澤 亮介

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草 グロッソスティグマ
ルドウィジア・イールトリコロール
ポゴステモン・デカネンシス
ウォーターバコパ
ベトナムゴマノハグサ
その他

魚種 ダイヤモンドテトラ
ダイヤモンドレッドベレステトラ
ブルーテトラ
その他



沓澤 東京ではいくつもイベントが開催されましたが、大阪での開催は初めてとなりますね。

本間 念願の関西エリア開催だけにうれしいですね。

沓澤 今回は180cm水槽が9本展示される、過去に例をみない最大規模のネイチャーアクアリウム展示となりますが、制作は準備段階も含めてどのように進められたのでしょうか。

本間 9本の水景が一同に展示されるため、事前にどのような水景を制作していくのかADA水景クリエイター同士でも綿密に協議をしました。例えば同じ石組というスタイルの水景でも別な世界観での展示となっていますので、同時にご覧いただいたときでも、それぞれの水景の個性を楽しんでもらえると思います。水草の多様さ、気ままに泳ぐ熱帯魚たちも含めた水中世界的美しさを届け

られたらいいなと思います。

沓澤 5名の作品が展示されていますが、本間さんは唯一180cm水槽で3本の水景を制作されていますね。苦労された点などありますでしょうか。

本間 私たちクリエイターが制作する水景も、基本的なネイチャーアクアリウムスタイルから発展的で個性的な水景が目立つようになってきているように感じています。今回私が制作した水景は基本に忠実な部分が見て取れるよう意識しています。また、水景の要素が似通わないように、言うなればバランスを取るような役割を持って水景づくりに臨みました。構図のあり方や使用する水草、お客様が見たときの印象など会場に並ぶことを想像しながら3つの水景を制作しました。

沓澤 イベントで初めてネイチャーアクアリ

ウムに触れるお客様も多く来場されることでしょうし、大切な基本の部分を伝えることも重要だと思います。

本間 そうですね。初めて水景を見るお客様にはネイチャーアクアリウムの真髓を感じ取ってもらえるような作品づくりを目指しました。また、古くからのファンの方々には天野尚の精神を受け継いでいるところも見てもらえたらと思います。

沓澤 最も水草主体の水景づくりをされた作品はどれになるのでしょうか。

本間 「水草の森」になります。この水景ではネイチャーアクアリウムの基本の構図でもある三角構図を採用しました。さらに中央のグロッソスティグマの丘をつくるアイデアを取り入れて、中央を抜ける空間によって特徴的な印象を狙いました。タイトルにも

なっているように色とりどりの水草でつくられた森が構成されていますが、その広がりや空間の先にある世界についても想像を巡らせてもらえたらと思います。

沓澤 ネイチャーアクアリウムのイベントでは、実際の水槽をさまざまな角度で観察できて面白いと思いますが、各イベントを通じて一貫して伝えていきたいものはなんですか。

本間 私自身がそうであったように漠然とキレイ、というものも水景の魅力ではありますが、その背景にある生き物のつながりや自然の摂理について理解しやすくなることだと思いますね。このような自然への意識を持ってもらう方法の一つとして、ネイチャーアクアリウムを觀賞していただいて、感動を届けることが大切だと思っています。

水草の森

中央の丘を抜けると数々の水草が生い茂る森へ誘われる。個々の美しさと数々の種類が群生する自然感あふれる水景といえる。



ダイヤモンドテトラ
水草の色彩美にも劣らない輝きを放つ。

荒木 この水景では「アヌビアスの印象」というタイトルにもあるようにアフリカ産水草の代表種であるアヌビアスを多数植栽しています。

柴田 アヌビアスはとても魅力的な水草だと思うのですが、なかなか多くの種類が植栽されるのは見かけないですね。

荒木 ネイチャーアクアリウムではお馴染みのアヌビアスですが、丸葉や細葉、耳のあるものや大小もさまざま、斑入りのもも含めてここでは17種を採用しているので間近で観察してもらうのも面白いかもしれません。

柴田 国内でも新たに流通しているアヌビアス「ジェイドやADAのアヌビアス・ナナ」「ブチ スノーブレイク」といった目新しい種類、古くから流通しているアヌビアス・バルテリーなども一緒に植栽されていて見ていて面白い水景ですね。

荒木 またセンタープランツ的にタイガーロータスを選びました。広範囲に植栽したアヌビアスに対して一か所にのみ植栽していますが、深紅の葉を次々と展開して最大のアイキャッチになることを狙っています。

柴田 浮葉が展開することも予想されますが、前景はアヌビアスで構成されているので相性は問題なさそうですね。

荒木 そうですね。浮葉が展開して影となってもいいように耐陰性のあるアヌビアスを周囲に植栽しました。また、同様の理由で化粧砂を採用し、イベント会期中にタイガーロータスレッドが生長し大株となっていくことも見越しています。

柴田 アフリカ原産の代表格といえる水草がメインに選ばれているように、魚種についてもアフリカ産を選ばれていますね。

荒木 魚の準備やストック水槽での育成を担当してもらっている柴田さんには苦勞を掛けたかもしれません(笑)。

柴田 そーです…ね(笑)。準備については、そもそもアフリカ産の熱帯魚の入荷が少ないので、年に数回というチャンスの中で選りすぐって種類を決定しましたね。

荒木 おかげでアフリカムーンテトラやネオレピナス・トリリネアータスといった代表的な魚種選定ができました。しっかり育成していただき、ありがとうございます。

柴田 水景に導入する前にはトリートメントと育成、順化を兼ねて準備を進めました。入荷してすぐの魚は水景には入れられないため、常に状態の良い魚たちの準備をしています。ちなみに、過去の水景でも採用された3年以上育成している個体も大阪で展示しています。

荒木 長く飼い込むことで体格も色彩も魅力が増していきますよね。他のクリエイターの水景も含めると、イベントではどのくらいの種類を用意しましたか？

柴田 展示している9本の水景で全33魚種が泳ぎ回っています。群泳するもの、表層性や下層性のもの、さまざまですね。

荒木 柴田さんのオススメの魚種はありますか？

柴田 魚の選定・育成を担当した者としておすすめしたい種類は「ジャックナイフテトラ」「ダイヤモンドテトラ」「キラセリナ・センタニエンシス」の3種ですね。来場のお客様にぜひご覧いただきたい熱帯魚たちです。

荒木 水景の観賞もさることながら、水草や熱帯魚そのものの魅力についてもイベントを通じて届けていきたいですね。



アフリカムーンテトラ
メインコンセプトと同郷のアフリカ原産熱帯魚を選択。水草水槽ゆへの発色が見物。

アヌビアスの印象
ネイチャーアクアリウムらしきある凹型構図にアヌビアスの活着性がいかされた水景。背景の有茎草もメインプランツに引けを取らない群生美をみせている。

Interview 02

NATURE AQUARIUM
EXHIBITION 2022
OSAKA

同郷の水草と 熱帯魚が織りなす アフリカン水景



水景クリエイター
荒木 大智



NAC(ネイチャーアクアリウム) 代表
柴田 康文

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草 アヌビアス・アフゼリー
アヌビアス・ナナ バリエガータ
アヌビアス・ジェイド
アヌビアス・キリン ミニ
タイガーロータスレッド
その他

魚種 アフリカムーンテトラ
ゴールデンコンゴテトラ
ネオレピナス・トリリネアータス
アンゴラバルブ
エトロピエラ
その他





ゴールデンテトラ
青灰色の石組の広い遊泳空間を輝く魚体が群れをなして泳ぐ。

龍王屹立
石群の細やかな配置が成す遠近感や奥行き表現のある石組。草丈の低い水草で構成され、さながら高地からの眺望を思わせる。

鴨田 龍王石を使用した内田さんの石組作品は、これまでのイベントでも展示されてきましたが、今回の作品のコンセプトはどういったものでしょうか。

内田 これまで制作してきた龍王石を使用した水景との関連性も持たせた世界観を目指しました。「龍王屹立」では山岳風景の表現を意識して制作しています。また、連作としてきた作品と異なった技術として背景部分の盛土を高く設計しました。

鴨田 連作とのつながりがある水景になっているんですね。この盛土はこれまでの作品ではなかった技法とのことですが、遠近感などを意図しているのでしょうか。

内田 そうですね。中央左の親石は60cm近くある大きなものを採用し、応じて副石や添石についても質感とサイズ感を寄せて配

石しました。一方で中景部分から背景にかけて使用した小さいものでは数cmほどの石と、この盛土の合わせ技で遠く方々の岩や山の表現を狙っています。

鴨田 数々の石が使用されているので輸送のための梱包もより丁寧に行う必要がある水景ですね。大阪へ水景を移動して管理を進めていくことになりますが、移動後の初期対応が重要になりそうですね。

内田 ネイチャーアクアリウム・ギャラリーの中で管理し続ける場合とは異なり、移動を経て水景管理を継続するという意識よりも、リスタートさせるような意識が必要ですね。移動後に輸送によって多少なりともダメージがあることと、元水となる水道水の水質そのものが変わることによる管理方針の更新といったテクニックが必要になります。これは

イベント中の管理を行うスタッフとして重要な考え方でですね。

鴨田 移動前から管理していた水景としてみてしまいそうですが、普段と同じ管理にならないような注意が必要なんですね。毎日、来場者の方々にベストな水景を觀賞いただくために自身の感性を研ぎ澄ませて管理をしていきたいと思います。管理の観点としては毎日見ていると長期的な変化に気づけない部分が出てしまいそうですね。

内田 毎日見続けていることのメリットもありますが、少しずつ生長が進んで気づいたときには管理基準よりも水草が繁茂してしまう危険性もあります。この水景で言えばグロッソスティグマはもちろん、リシアのボリュームが出過ぎてしまわないよう日々の細やかなトリミングが必要ですね。

鴨田 リシアについては光合成の気泡が觀賞できるように、毎日先端だけのトリミングをして管理をすすめたいと思っています。また、毎日行うという管理は石の擦り作業も同じ考えです。制約のある管理時間でも石の表面に藻類を付着させないためのコンスタントな管理を大切にしたいです。

内田 石表面の堆積物を放置しないよう毎日擦ることは重要ですね。堆積物があると藻類がすぐに付着、増殖してしまっ擦る作業については時間が倍以上かかってしまう場合も出てきます。

鴨田 毎日作業を行うことで、石の迫力や質感を維持し続けたいと思います。NACの一員として自身にも磨きをかけていきます！（笑）。

内田 いい意気込みですね。よろしくお願

Interview 03

NATURE AQUARIUM
EXHIBITION 2022
OSAKA

龍王石の 特性をいかした 石組レイアウト



水景クリエイター
内田 成

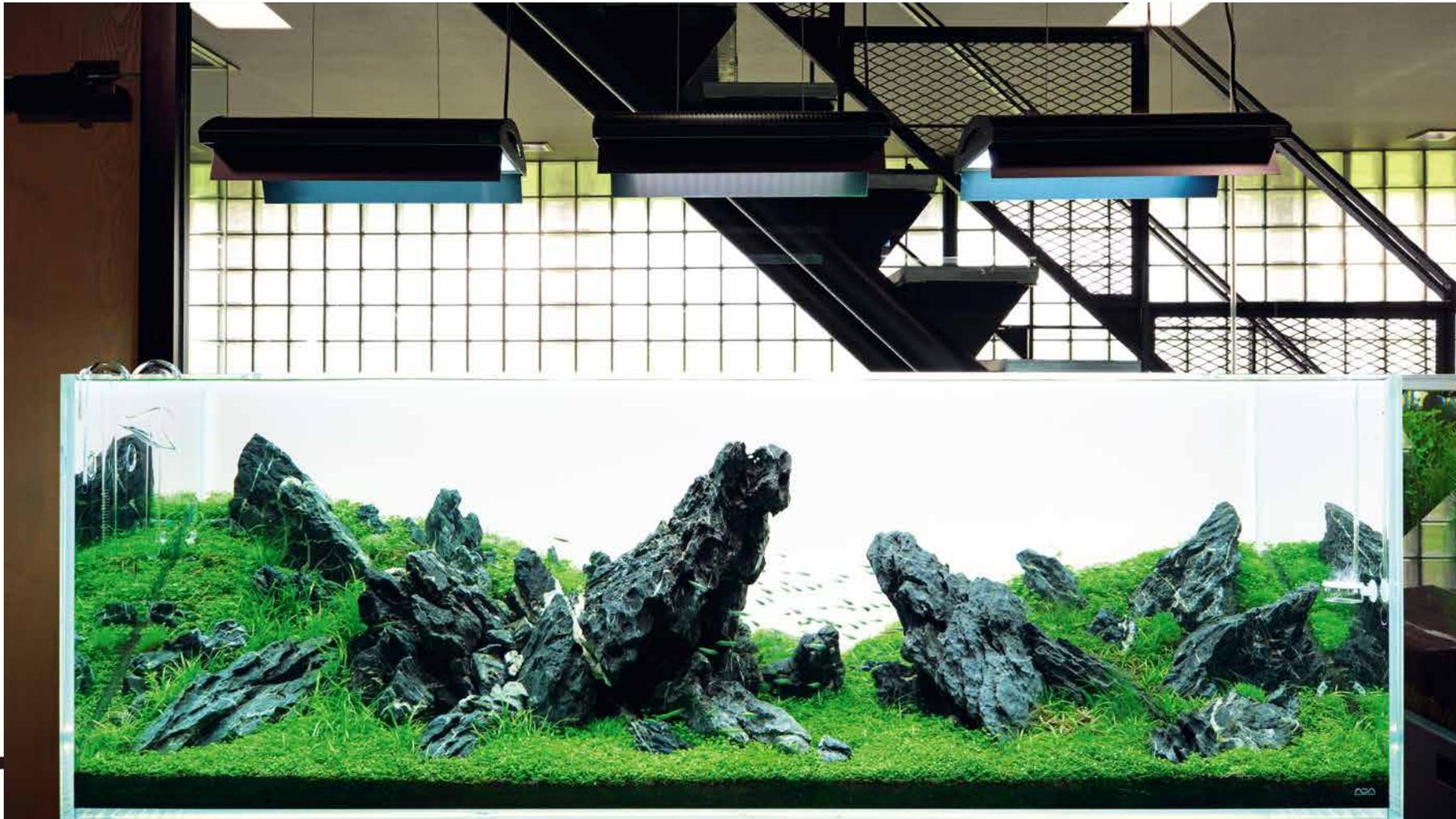


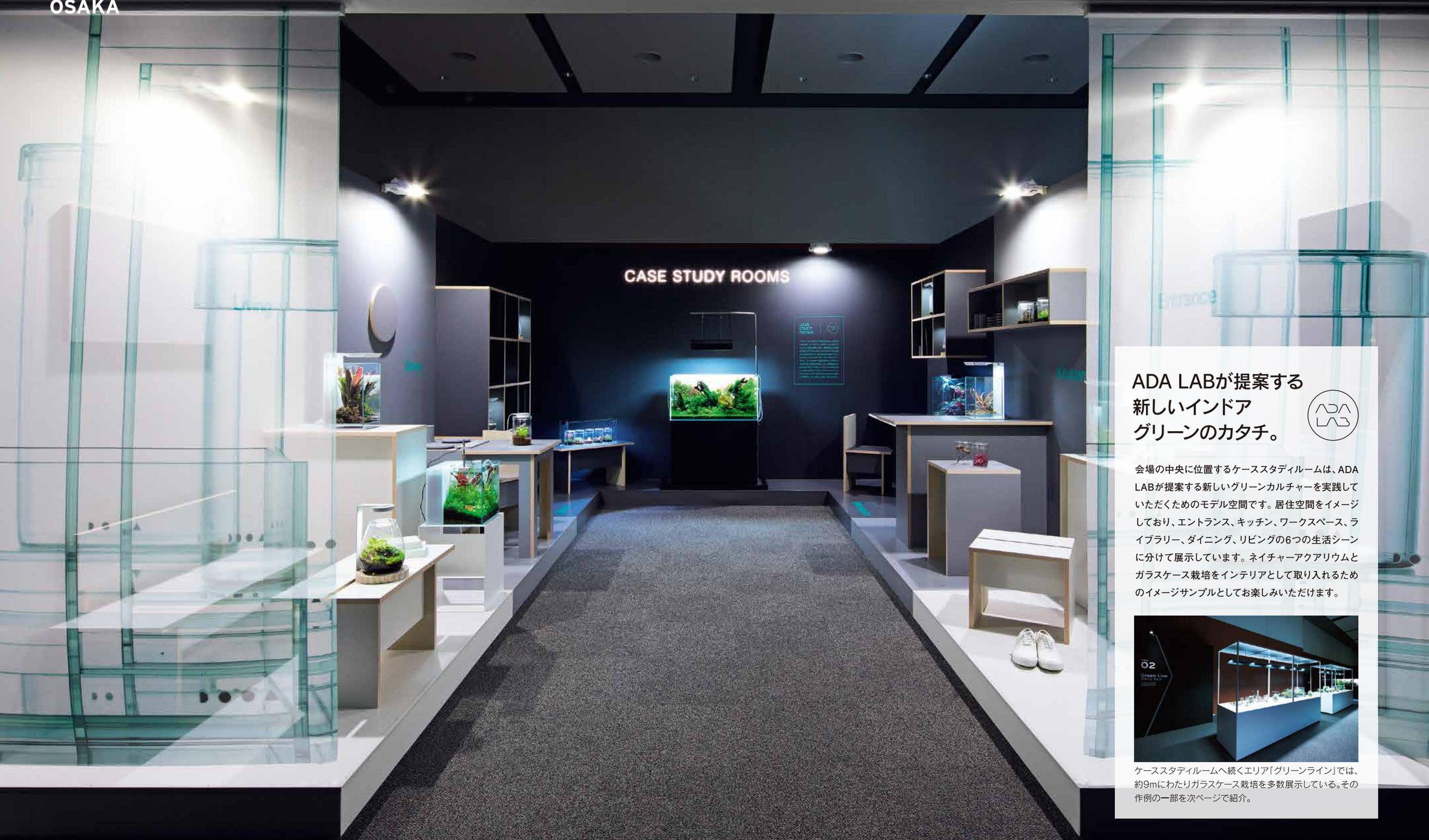
NAC(ネイチャークリエーション部)
鴨田 錬

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草 リシア
グロッソスティグマ
エキノドルス・テネルス プロードリーフ
アラグアイア・レッドシャープリーフ・ハイグロ
オーストラリアン・ドワーフヒドロコチレ
その他

魚種 ゴールデンテトラ





CASE STUDY ROOMS

ADA LABが提案する
新しいインドア
グリーンのカタチ。



会場の中央に位置するケーススタディルームは、ADA LABが提案する新しいグリーンカルチャーを実践していただくためのモデル空間です。居住空間をイメージしており、エントランス、キッチン、ワークスペース、ライブラリー、ダイニング、リビングの6つの生活シーンに分けて展示しています。ネイチャーアクアリウムとガラスケース栽培をインテリアとして取り入れるためのイメージサンプルとしてお楽しみいただけます。



ケーススタディルームへ続くエリア「グリーンライン」では、約9mにわたりガラスケース栽培を多数展示している。その作例の一部を次ページで紹介。

SPECIAL FEATURE

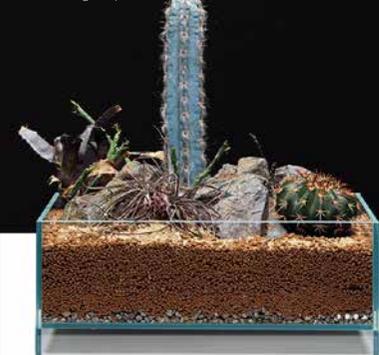
NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2022 OSAKA

グリーンラインに並ぶ ガラスケース栽培の可能性。

乾燥地域から熱帯雨林地域、湿地帯、そして水中を旅するグリーンライン。植物はさまざまな気候要因や地球環境へ適応するために長い月日をかけ進化し、その結果、私たちが驚くような性質や姿を獲得しました。メイン展示の1つであるグリーンラインでは、これらの珍奇で個性的な進化を遂げた植物たちがガラスケース栽培というスタイルでディスプレイされており、植物の興味深い生態を観察できます。ここでは展示されている作例の一部をご紹介します。

作例制作 / 岩堀康太

NEO GLASS AIR W30×D18×H12 (cm)
Melocactus concinnus
Pilosocereus pachycladus ssp. *pachycladus*
Euphorbia phosphorea
Dyckia choristaminea
Hohenbergia sp.



GLASS POT MARU
Turbinicarpus pseudopectinatus var. *rubriflorus*



NEO GLASS AIR W20×D20×H8 (cm)
Haworthia pygmaea var. *pygmaea*
Haworthia pygmaea var. *argenteomaculosa*
Haworthia truncata var. *truncata*
Haworthia semiviva
Haworthia cooperi var. *truncata*



NEO GLASS AIR W20×D20×H35 (cm)
Begonia chlorosticta 'Green Form'



GLASS POT MARU
Anoectochilus sp.



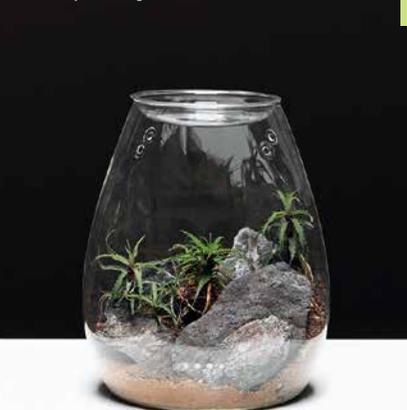
NEO GLASS AIR W20×D20×H30 (cm)
Brocchinia reducta
Heliamphora heterodoxa x *minor*



GLASS POT MARU
Conophytum burgeri



GLASS POT SHIZUKU
Rokautskyia microglazioui



GLASS POT SHIZUKU
Pinguicula esseriana



GLASS POT SHIZUKU
Cryptocoryne ferruginea var. *ferruginea*



NEO GLASS AIR W20×D20×H8 (cm)
Anubias gracilis



NEO GLASS AIR W15×D15×H25 (cm)
Lagenandra meeboldii 'Bleeding Heart'



NEO GLASS AIR W15×D15×H25 (cm)
Nepenthes jamban



GLASS POT MARU
Drosera allantostigma



GLASS POT SHIZUKU
Ardisia sp. 'Turtle Back'
Labisia sp. 'Riau'
Acranthera sp.



NEO GLASS AIR W15×D15×H25 (cm)
Cryptocoryne spiralis 'Tiger'



GLASS POT SHIZUKU
Eriocaulon sp. 'Mato Grosso'



GLASS POT MARU
Taxiphyllum sp. 'Flame Moss'



Interview **04**

NATURE AQUARIUM
EXHIBITION 2022
OSAKA

自生地への憧れと 植物への愛情が成した 3m アクアテラリウム



水景クリエイター
岩堀 康太



NAC(ネイチャークリエイション)®
室井 直陽

水 槽 W300×D60×H60 (cm)

水 草 アテロネマ・ワリシイ、ペアルケア・ヒボキロティフローラ、アグロオネマ・ピクタム、
ペゴニア・プランキー、クリプトコリネ・コルダータ、ラゲナンドラ・ケラレンシス、
マバニア sp.、ペゴニア・クロロスティクタ、キエウイア・リドレイ、
プセファランドラ・ブラウニーゴースト など

魚 種 スファエリクティス・バイランティ、スファエリクティス・セラタネンシス、
ベタ・スマラグティナ、ラスボラ・アクセルロディブルー、
ラスボラ・ソムフォングシー

室井 今回のイベントでは、NAエリアに引
けをとらない広さのDOOAエリアがあって、
水槽の数や植物のバリエーションもかなり
多いですね。

岩堀 そうですね。エリアに入ってます目
にするグリーンラインは、43個のガラスポツ
トMARUやSHIZUKU、ネオグラスエアに
50種以上の個性豊かな植物を配していま
す。沈水植物の他に陸上植物も使っていて、
LEDライトを光源としたガラスケース栽培
の可能性が全面に出ていると思います。

室井 全長9mにも及ぶグリーンラインの並
び方にはどのような意図があるのでしょうか。

岩堀 陸上で生活していた植物の一部が水
中へ適応し、進化していった変遷を表す配
置になっています。進化の過程でどのよ
うな形態や機能を持つようになったのかを考
えることも楽しさの一つですね。

室井 ガラスケース栽培の巨大版とも言え
る3mアクアテラリウムは熱帯雨林の水辺
を再現した秘密がたくさんありますよね。

岩堀 そうですね。定期的に発生する雨や霧
は演出のためだけでなく、植物の良い状態を
維持する面でも非常に重要になっています。
その他にも湧き水やポンドがあって正面から

だけではわからない要素も散りばめているの
で、ぜひさまざまな角度から見て欲しいです
ね。複雑な仕組みを取り入れるために、構図
を組む段階からいろいろな苦労がありました。

室井 私も制作に参加させてもらいました
が、制作初期から多くの構想を重ねてきま
した。水槽の上部には水槽の強度を保つた
めの4本のフランジがあって、使える素材の
大きさに制限があったにも関わらず迫力あ
る作品になりましたね。

岩堀 ホーンウッドは水槽に入らなくて、逆
にしたりしてなんとか入れ込みました(笑)。
流木が絡み合うことで土壌をせきとめて、そ
の上に植物が広がる光景は忠実な水辺の表
現になったんじゃないかなと思います。

室井 構想通りの構図を組み終えて、植栽
ではどのようなことを意識していますか。

岩堀 100株以上のラゲナンドラの群生は
最大の魅力ですし、陸上部分には奇抜な形
と色の葉を持つペゴニアが点在していて、
フィールドで見つけ出すような楽しみを味
わってもらえると思います。ただ、見所とな
る植物は個性的なものも多く、全体のバラ
ンスを考えてシダ類などの個性の弱いもの
も織り交ぜて自然な植生になるような植栽

を心がけました。ちなみに、運が良ければク
リプトコリネの花が咲く様子を見れるかも
しれないので、そんなアクアテラリウム特有
の魅力に触れてもらえると嬉しいです。

室井 クリプトコリネの魅力を再認識でき
そうですね。岩堀さんは今後はどんな植物
の栽培に挑戦していきますか？

岩堀 DOOAで楽しむことのできる植物栽
培の提案をしていきたいと思っています。その
ためには植物や自生地への理解を深め、何
よりも植物への愛情が必要だと考えていま
す。流行している植物の他にも楽しめる植物
は星の数ほどあって、可能な限り全世界
の自生地を巡りに旅立ちたいですね。



ペゴニア・ウェルシコロール
派手な葉からは想像もつかない可愛らしい花を咲かせた。

熱帯雨林の水辺

地表に光が届きにくい熱帯雨林では主に陰生植物が繁茂する。入り組んだ
流木とその間を埋め尽くすほど密生した植物で水辺の多様性を表現した。





ネイチャーアクアリウムとは

会場のエントランスにはフルHD超大型モニター「GIGA ビジョン140インチクラス」を設置。大迫力と臨場感あふれる美しい映像で来場者の方をネイチャーアクアリウムの世界へご案内します。

AREA 01
What is Nature Aquarium?



グリーンライン

ガラスケースで育成された珍奇で個性的な植物たちがずらりと並びます。乾燥地域に自生する植物から沈水植物に至るまで、さまざまな自生環境を訪れる感覚で植物観察を楽しめます。

AREA 02
Green Line



ケーススタディルーム

ご家庭で植物のガラスケース栽培や水槽システムなどの設置をイメージしやすいように設けられたモデル空間。6つの室内シチュエーションに分かれており、インドアグリーンを楽しむためのヒントが得られるエリアです。

AREA 05
Case Study Rooms



ネイチャーアクアリウムの源流

自然の摂理にならった表現手法などを取り入れた独自のレイアウトコンセプトであるネイチャーアクアリウムを提唱した天野 尚。プロフィールや初期に制作されたネイチャーアクアリウムの水景写真を展示しています。

AREA 06
Headwaters of NA

NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2022 OSAKA

[エリアトピック]

関西圏初開催となるネイチャーアクアリウム展 2022大阪。見どころ満載の本展は9つのエリアから構成されています。ここでは各エリアの様子を簡単にをご紹介します。

インドアグリーンシステム

DOOAの各種水槽システムを8台展示。植物に良好な育成環境を提供する水槽システム内には、多種多様な植物がレイアウトされています。より自然に近い形で植物の様子を観察できます。

AREA 03
Indoor Green System



アクアテラリウム 300

全長3mの大型アクアテラリウム水槽を展示。水が湧き出している所や自動化されたミストスプレーと霧の発生といった植物育成もかねた演出がされており、自生環境さながらのレイアウトを楽しめます。

AREA 04
Aqua Terrarium



ADA水景クリエイター

水景クリエイターによる9本の新作を展示。整然と並ぶ180cm水槽がネイチャーアクアリウムの世界へといざないます。また、後方ではリスボン海洋水族館の40m水槽制作プロジェクトをスクリーンで上映。

AREA 07
ADA SUIKEI Creator



水槽の中の生命

本展のネイチャーアクアリウムを彩る水草や熱帯魚の一部をパネル展示。パネル下には解説キャプションが印字されているため図鑑としても楽しめます。作品群の中から実際の姿を見つけてみましょう。

AREA 08
Life in aquarium





未来に伝えたい世界の風景

写真家としても著名であった天野 尚。ここでは、天野が撮影した生態風景写真の数々を展示。大型パネルに印刷された緻密で高解像度の生態風景写真の数々は、自然の美しさや尊さを後世に伝えます。

AREA 09
Scenery for the Future



ミニパルダリウムワークショップ

ガラスポットMARUとSHIZUKUのミニパルダリウム制作ができるワークショップを8月の第1と第3土・日曜日に開催(計4回)。

※ワークショップは予約制です。詳しくは特設サイトをご覧ください。

<https://ada-laboratory.com/workshop/>



EVENT
Mini Paludarium Workshop

ネイチャーアクアリウム展 2022 大阪

7.23^{sat}-9.25^{sun}
なんばスカイオ 7Fコンベンションホール (南海なんば駅直結)

GOODS

※そのほかイベントグッズ、ADA製品も販売。

イベント限定



タンブラー
本展メインビジュアルの水景デザイン。
サイズ:Ø75×H140(mm)
容量:300mL
定価:¥1,100(税込)

缶バッジ
魚眼レンズで撮影された水景写真をプリント。

サイズ:Ø56×D5(mm)
全3種類
定価:各¥550(税込)

イベント限定

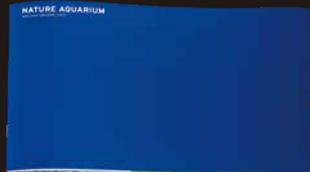


NA展グッズ販売コーナー

DOOA製品をはじめ、ガラスポットMARUやネオグラス エアなどの作例も展示販売。ここでしか購入できないイベント限定グッズもご用意しています。来場の際はぜひチェックしてみてください。

ADA SHOP
NA Exhibition Goods

ADA水景クリエイター写真集
待望の写真集を本展先行販売。
※一般販売は8月下旬予定
サイズ:W297×H182(mm)
ページ数:オールカラー 40ページ
定価:¥1,000(税込)



INFORMATION

Aqua Design Amano Laboratory

GINZA
ADA ●●●●



会期延長決定!
Until the end of January, 2023
Tokyu Plaza Ginza 5F
11:00-20:00
<https://ada-laboratory.com/>

好評をいただいております「ADA LAB GINZA」が2023年1月下旬まで会期延長します。
※今後の詳細はホームページ、SNSなどでご確認ください。



世界の仲間たちと、ランキング発表を楽しもう!

IAPLC 2022 
Premiere on YouTube

2022.08.27 SAT 20:00-
TOP100ランキング発表、世界同時配信!
<https://www.iapl.com>

今年は応募数2,083作品、参加国・地域は81となり、皆様、たくさんのご応募ありがとうございました。世界トップレベルの作品の中から決定するグランプリは誰の手に。結果発表は、**YouTubeのADA公式チャンネル**にてランキングと作品発表の世界同時配信となります。そして今年も上位100作品の方には受賞メダルを進呈いたします。世界中の仲間たちとライブ配信を一緒に楽しみましょう。



STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2022 Printed in JAPAN

Publisher 天野 しのぶ
Art Direction NATURE AD DESIGN
Design 丸山 悟司 / 市川 亮 / 高遠 将史
Editor 杉本 俊輔 / 柴田 康文 / 小川 龍司 / 亀山 壽史郎 / 吉田 壮佑
総監修・大岩 剛 / **写真監修**・阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアmano
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社山田写真製版所

NEXT AQUA JOURNAL October 2022 vol.324 / 2022年9月10日(土) 発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、ADAホームページで公開しています。